



第24回 東京女子医大 総合診療セミナー

全身性強皮症の最新治療

東京女子医科大学膠原病リウマチ内科
臨床教授 川口 鎮司

学歴：

1988年3月 防衛医科大学校医学科卒業
1998年1月 慶應義塾大学医学部にて医学博士取得

職歴

1988年6月 防衛医科大学校附属病院 研修医
1990年6月 防衛医科大学校内科学第1 医員
1994年10月 米国ピッツバーグ大学医学部内科
リウマチ臨床免疫部門 博士研究員
1997年8月 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 助手
2003年6月 同 講師
2008年11月 同 准教授
2011年8月 東京女子医科大学病院リウマチ科 臨床教授
2021年4月 東京女子医科大学医学部内科学講座
膠原病リウマチ内科学分野 臨床教授
現在に至る

専門医・指導医

日本内科学会内科認定医 No. 5725、日本内科学会総合内科専門医 No. 2603
日本リウマチ学会専門医 No. 2071、日本リウマチ学会指導医 No. 1120

評議員

日本リウマチ学会、日本肺高血圧・肺循環学会、日本結合組織学会

賞および研究助成

1994年 日本結合組織学会 第3回大高賞
1994年 上原記念生命科学財団 リサーチフェローシップ
1995年 Research Award of the Arthritis Foundation,
Western Pennsylvania Chapter, USA
1999年 かなえ医薬振興財団 研究助成金
2000年 上原記念生命科学財団 研究奨励金
2001年 内藤記念科学振興財団 特定研究助成金
2004年 Young Investigator Award of APLAR2004
2006年 臨床薬理研究振興財団 研究奨励金
2019年 日本リウマチ学会賞

全身性強皮症は、膠原病の中でも特に治療方法の確立していない難治性の病態を呈する疾患です。線維化と血管障害が組み合わさっており、いろいろな臨床症状を呈してきます。生命予後に関わる臨床症状は、肺病変です。過剰な線維化による間質性肺疾患、さらに、血管病変による肺動脈性肺高血圧症が重要です。進行した病態が形成される前に、診断をして、現在、有効性が示唆されている治療を行うことが、現状での有用な医療となっております。そのため、全身性強皮症の認識と早期に膠原病内科へのご紹介が必要であろうと考えております。早期診断のコツと最新の治療方法を解説させていただきます。

対象 総合診療に興味のある医師・学生・コメディカル

参加費無料

Zoom開催

事前登録制

日時

2024年6月12日(水)

申込QRコード

19:00~20:30

参加方法 QRコードよりお申し込みください

* 読み込めない方は下記URLよりお申し込みください

* 必ずではございませんが、日本プライマリ・ケア連合学会の生涯学習単位（医師・薬剤師）が付与されます。

* お問い合わせ先：東京女子医科大学 総合診療科医局

* ZOOM <pcc-ikyoku.br@twmu.ac.jp> <03-3353-8111 内線：37312>

https://zoom.us/meeting/register/tJ0sdOivrjgvH9GuU4_0Jhd5RH2Ouwjk5Axx

* 日本プライマリ・ケア連合学会単位希望 <https://forms.gle/934D9qBZuTzfubzz5>

* 当セミナー評価 <https://forms.gle/ToMiEWTz1W898YTY9>

